

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ JRRN 会員寄稿記事.....	3
➤ 「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ.....	6
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	7
➤ 冊子の紹介.....	7

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

### コロナ禍を乗り越えよう！ ～JRRN 事務局メンバーからのメッセージ～

#### 今だからこそもう一度見つめたい

皆さんこんにちは。コロナ感染症の蔓延が止まらず、皆さんの地域の水辺の活動も何かと制限がかかっているのではないですか？これは残念ですが、でも 皆さんが実際に活動している川のことを知るには、とても良い時間が与えられているのだと思います。私の体験ですが、子供の頃、町の中に竹籠やザル、よしずや簾など竹を扱った商品を売っているお店がありました。そこに川で魚を捕る道具として四つ手網やうなぎの「筒ん坊」なども売っていました。誰でも買うことができ、子供の私でもみんなでおい遣いを集めて購入し、仕掛けた覚えがあります。子供でもうなぎを取ることができましたので、大人の人達はもっとたくさんうなぎを捕まえて川魚料理店に引き取ってもらっていたとことを覚えています。

でもある時に河川改修工事があって、河川敷は立ち入り禁止になってしまい、その後工事が終わると堤防道路には車止めの柵が設置され、大人も子供もなんとなく水辺に近づくことが出来なくなってしまいました。その時は、河川改修工事の意味が分かりませんでした。後になって、私達が住んでいた川のそばは、明治時代から洪水常襲地域で農家の軒先には船が吊ってあり、いわゆる高盛土したところに母屋が建っている水屋造りになっていました。

川は自然が作り出したものかもしれませんが、私達の治水の取り組みや社会生活、食生活、遊びのスタイルなど様々な要素から川との付き合い方が変わってきています。それはまさに河川の織りなす水の文化です。川を軸に地域を見ると地域コミュニティも社会的取り組みも大きな時の流れの中で今私たちは水辺と付き合い合ってきたのだと思います。いつも川の現場に立つとそんな川の生い立ちが悠久の時の流れの中でどんな文化を育んできたのかに思いが馳せます。

今、コロナ禍でフィールドワークができない分、地域の人々がどのような川との付き合いをしてきたのか、時を遡ってみるのもいかがでしょうか。1000人いれば1000通り、万人いれば万通りの川との営みがあるのだと思います。きっとこの次フィールドに出た時、川の姿が違って見えてくるのではないのでしょうか。

皆さんこんな時だからこそ、川が時の流れと共に私達を包み込んできてくれた大きな力を感じたいと思います。

頑張りましょう！！

JRRN 代表理事／事務局長 土屋信行

私は福井県大野市という水自慢の盆地の生まれですが、子供の頃は近くの小川でサワガニや川エビを採り、水路でタニシを採り、少し大きな川でウグイやあっぱへ（いわゆるアブラハヤのことらしい）を釣り、大きな河原のある川では泳いだり川遊びをしたりしていました。一人で行くこともありますし、友達と行くこともあります（泳ぎに行くときは友達3人以上）。他にも蛭狩りやトンボ採りなど、思えば川や水辺と縁のある暮らしをしていました。田舎では特にめずらしくもなんともない生活ですが、いま東京で小中学生の子供を持つ親として生活していると、ずいぶん特別なものだったような気がします。そんな特別な体験を今でも全国で支えているのが皆さんの活動だと思います。コロナ禍の折、さまざまな苦労があるかと思いますが、また元気なご様子が伺えることを楽しみにしております。

（阿部充）

私事ですが、川に関わる仕事に就いたことをきっかけに、溪流釣りを始めました。今年はどうなるかと心配していましたが、地元である会津では三密回避を呼びかけつつ、無事に解禁されたようです。常連さんの話では、釣果はまずまずで、密になる気配も無いといいます。確かに溪流釣りでは、その日どこで釣るかは、ポイントの混み具合をみて決められます。アユになわばりがあるように、釣り人にもなわばりがあり、上流・下流・対岸など周囲に配慮した上でいかにアユと知恵比べをして釣果をあげるかに醍醐味があります。溪流釣りでは暗黙のうちにソーシャルディスタンスが保たれており、改めて川というフィールドの持つ懐の深さを感じています。

（北澤史）

「小さな自然再生事例集 第2集」の発送作業を担当しています。既に沢山の方からお申込みを頂き、随時発送中です。第2集刊行に対する反響の大きさから、普段とは違う日常の中でも全国の皆さんの小さな自然再生に対する情熱が衰えていないと感じ、事務局の私達も沢山の勇気を頂いた気持ちです。「河は委蛇（いい）を以（も）つての故に能（よ）く遠し」（川は地形に沿い、ときに蛇行することで遠くまで流れる。自然の状況にあわせて柔軟に対応すれば道が開ける）ということわざにもあるように、コロナ禍にも水害にも臨機応変に取り組んでいきたいと思います。

（澤田みつ子）

今年もすでに各地で大きな洪水が発生しており、皆様が「小さな自然再生」を手がける身近な川も、場所によってはたいへんな惨事に見舞われているのではないのでしょうか。そうした大きなフラッシュは、自然の持つ自浄作用の一つであると頭では分かっている、せつかく力を合わせて創った魚道やバープの被災は、やはり落胆してしまいますよね。私達が向き合っている川は、一部が護岸で固められた水路であっても、川という大きな生命体であることには変わりないと思います。流れる水は私達の血液と同じであり、そこに住まう生き物は、私達の細胞一つ一つと同じような気がします。ひょっとしたら、私たちの「意識」同様に、川全体としての集合意識もあるのかもしれないね。洪水による大変容も、見方によってはフレッシュな河床材料が供給され、眠っていた土壌シードバンクから新しい種が芽吹く一つの契機でもあります。コロナ禍の中、動き辛い時世ですが、皆様が応援する川も「小さな自然再生」の取り組みに、きっと喜んでいてくれることと思います。川の心を拾い上げる皆様の貴重な活動を、今後とも応援してまいりたいと思います。

（白尾豪宏）

多くの方々の協力で3月末に完成した「小さな自然再生事例集 第2集」。今年度はこの事例集を最大限に活用し、水辺でできる小さな自然再生のファンを増やし裾野を広げる研修会のシリーズ開催を企画しておりますが、新型コロナ感染拡大の状況を見ながら現在踏み留まっている状況です。JRRN事務局を構える東京では遠方への外出自粛が長く続く中、心身リフレッシュを目的に都内の川沿いにはたくさんの方が集い、水辺が有する価値を再考する貴重な機会となっております。豪雨による水災害が全国で頻発する中、日常からの人と川の関わりはどうあるべきか、そのために私たちができることが何かを熟考し、会員皆様に役立つ新たな行動に繋がる情報と機会をこれからも創造していきたいです。

（和田彰）

# 8月



## あの日のあの川 リレー日記 ～第51話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第51話主人公 山口まりな

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：江戸川)

### 「夏も冬も川とともに」

いつのこと？：6歳～

どこの川？：江戸川

はじめまして。笹目くんからバトンをもらいましたので、昔の思い出をたどりながら私にとっての「あの日のあの川」を書かせていただきます。少しの間だけ、拙い文章にお付き合いください。

私は小学校に上がるタイミングで神奈川県から母の実家のある東京都江戸川区に引っ越してきました。家から江戸川までは徒歩1分。それからは、川のある暮らしが当たり前になりました。とにかくたくさん思い出があるのですが、あえて厳選せずに

私が川の近くでどう育ってきたか振り返ってみたいと思います。

小学生のころは行動範囲が家から近かったため、特に川との思い出がたくさんあります。夏休みの朝は6時半に河川敷の公園でラジオ体操をすることから始まりました。学校の宿題で、ラジオ体操に行くスタンプがもらえるというものがあったのです。当時は眠くて嫌々行っていたのですが、健康的でよかったです。午後には、友達と遊ぶ用事がなければ、妹と一緒に父に連れられて川のほうへ出かけ、虫取りや魚釣りをしました。土手や河川敷は草でおおわれているので、バッタやモンシロチョウがたくさんいるのです。また、江戸川にはハゼや手長エビがいて、川べりからすぐそばへ糸を垂らすと釣ることができました。満潮の時は特に落ちるのが怖くて父の近くでおとなしくしていましたが、なんだかんだ釣れる楽しさのほうが大きかったように思います。釣れた日は母が夜ご飯で唐揚げにしてくれたので、それも楽しみでした。今思うと、川の近くに住んでいたことでより楽しい夏休みを過ごせていたかもしれません。虫取りはもう虫が嫌いでもやらないと思いますが、釣りのほうは大学に入ってからまた父と一緒にに行くようになりました。

夏の江戸川は一大イベントがあります。毎年8月の第一週に行われる江戸川花火大会です。規模も数も大きく、引っ越してきて初めて見た時の感動は今でも忘れられません。それから家族で毎年大切にしている行事で、場所取りをして祖父母やそのお友達、両親に私が呼んだ友達と大人数で見えています。明るいうちから土手のブルーシートにじゅうたんを敷いてお弁当を食べ、夕焼けの江戸川を眺めながら待っているとカウントダウンが始まります。ゼロという声とともに一気にドドドッと打ちあがる瞬間はものすごい迫力です。今年はコロナウイルスの影響で開催しなくなってしまって残念ですが、また見に行けるのを楽しみにしています。

小学校の高学年から中学生のころは、冬にマラソン大会に向けて河川敷を走ったりもしていました。早朝の川はとてもきれいで、景色を見ながら走るの爽快です。毎日走るうちに折り返し地点がどんどん遠くなりました。キラキラした川を見ながらだから長距離のランニングも頑張れたように思います。

小学生のうちには遊びや活動の場所だった河川敷は、中学生になると自転車で通り過ぎる場所になりました。遠くの地域の友達もでき、公園や河川敷ではなくショッピングセンターに行って遊ぶようになったのです。私の中学から一番近いショッピングセンターは自転車で20分ほどの千葉県にあるところだったので、部活のない日曜日には友達と自転車で橋を渡って遊びに行っていました。大河川なので橋が長くて大変でした。川との距離は少し離れたように思いますが、頻りに橋を渡っていたという期間も珍しいかなと思います。

高校生になると、都心まで電車通学になり江戸川に行く機会はますます少なくなりました。ソフトボール部に入ったので土日も遠征が入ることが多く、休日らしい休日はありませんでした。しかし、冬休みだけは川に行く機会がむしろ増えたかもしれません。10日間ほど部活が休みになるため、体がなまるのが嫌で中高ソフト部だった母親によくキャッチボール相手になってもらっていました。河川敷はキャッチボールに最適な環境でした。広いし人は少ないし道路に面していないため危険も少ないからです。フライの練習まで思いっきりできました。母と川には改めて感謝です。

大学生になってからは学校の近くで一人暮らしをさせてもらっていたのですが、コロナウイルスの影響で授業がオンラインになってからは実家に戻ってきました。家族と一緒に暮らすのは久しぶりででしたが、父とウナギを釣りに行ったり姉弟で土手をランニングしたりもして仲良く過ごしています。

江戸川の近くで育ってきた自分の記憶をひたすら書いてしまいましたが、最後までお付き合いいただきありがとうございます。江戸川は大河川で、水辺でパシャパシャ遊ぶといったことはなかなかできません。しかし、大河川だからこそその景色や広々とした河川敷は、私にたくさんの体験をくれました。そして、これからも近くで支え続けてくれるのだと思います。

(次は鈴木雄大さんにバトンを託します)

## 水辺からのメッセージ No.135

岡村幸二 (JRRN 会員)

### 江戸の庭園を偲ぶ： 古く池泉内に弁財天が祀られて 長く庶民に親しまれている



撮影：2020年7月（東京都文京区・須藤公園）

#### ◆小さくても回遊式庭園の風情

江戸時代この地は江戸の郊外にあたり、加賀藩支藩の大聖寺藩の下屋敷で、遠く東京湾を隔てて房総半島の山々が望まれたそうです。この庭園は小規模ながら起伏に富んだ地形を巧みに活かしています。

#### ◆買い物がえりに立ち寄りたくなる

明治維新後に長州出身の政治家の転宅となりましたが、明治22年には実業家須藤吉右衛門に渡っても、大名庭園の風趣を損なわないように永く保存されてきました。2018年にリニューアルオープンにより、これまで樹木で覆われ薄暗い印象だったのですが、今は池の周りに明るい日差しが感じられます。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーはJRRNホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ Nature-oriented River Management Support Center

※『多自然川づくりサポートセンター』は、多自然川づくりについての技術的な支援、市民との連携の強化、気軽な相談窓口、情報の共有等を担い、(公財)リバーフロント研究所が事務局を務めています。JRRN は多自然川づくりサポートセンターと連携して川づくりの推進に取り組んでまいります。

『河川を基軸とした生態系ネットワーク形成のための手引き(河川管理者向け)(案)』(令和2年2月版)が公開されました!



多自然川づくりサポートセンター事務局

本手引きは、生態系ネットワーク形成のさらなる推進を図るため、主に、これから協議会を立ち上げ事務局を担う河川管理者を対象に、生態系ネットワーク形成の取組の進め方ととりまとめたものです。生態系ネットワークの概要や必要となる調査、また具体事例が分かり易く紹介され、河川管理者のみならず、実務に携わる技術者の方々や、自然再生に取り組む市民の方々にも参考となる知見を得ることができます。

<目次>

- 1.はじめに
- 2.本手引の構成
- 3.生態系ネットワークの基本的情報
- 4.多様な主体と連携した生態系ネットワーク形成の進め方
- 5.具体的な取組

※本手引きのダウンロードはこちらから:

<http://www.rfc.or.jp/result4.html>



JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2020年7月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■「市民が選ぶ 川ごみマップ大賞」決定

全国川ごみネットワーク ( <https://kawagomi.jp/> ) より、「市民が選ぶ 川ごみマップ大賞 決定！」のご案内です。

全国川ごみネットワーク(座長：亀山久雄)は、市民による独自の選考会を開催し、国土交通省が作成・公開している全国109水系・170以上の河川ごみマップの中から、「川ごみマップ大賞」を決定し、7月7日(川の日)に発表しました。

- 大賞：千歳川河川事務所「ゴミマップ」  
(北海道開発局 札幌開発建設部 千歳川河川事務所)
- 最優秀賞：「十勝川ゴミマップ」  
(北海道開発局帯広開発建設部 帯広河川事務所)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3702.html>



【海外からの提供情報】

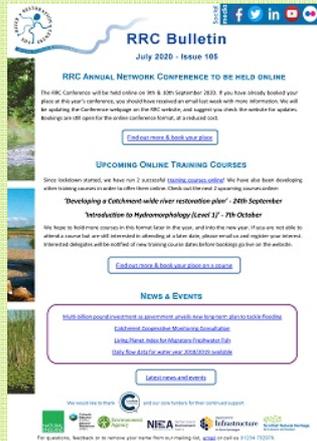
■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2020年7月号) が事務局より届きました。

本号では、9月にオンライン開催するRRC年次講演会の案内、また同じくオンラインで開催される河川再生研修案内、また英国内及び欧州の河川再生に関連するニュースが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3721.html>



【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) eNEWS 最新号」紹介

ECRR (欧州河川再生センター) のeNEWS最新号(2020年7月号)が事務局より届きました。

本号では、AMBER(欧州河川の横断構造物の順応的管理)プロジェクトのWebセミナー動画や冊子の公開案内、また欧州におけるwebを中心とした河川再生に関わるイベント情報が紹介されています。

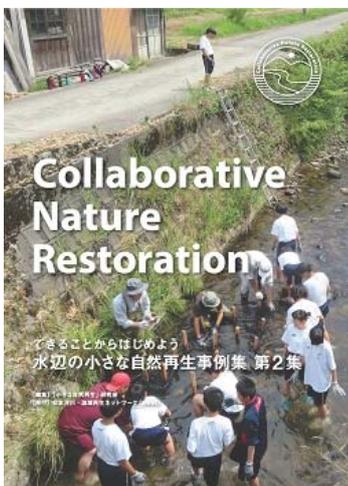
◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3699.html>



冊子の紹介 Publications

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編(第2集)が完成しました。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集：「小さな自然再生」研究会
- 企画・構成：吉富友恭 東京学芸大学環境教育センター
- デザイン：本間由佳 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 発行年月：2020年3月

■上記冊子の入手方法はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

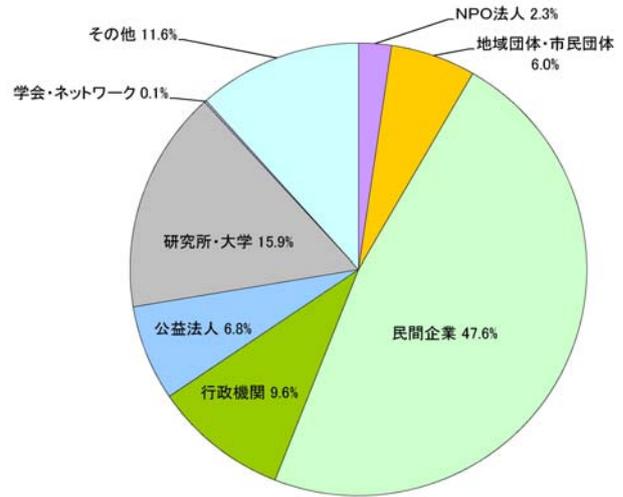
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2020年7月31日時点の個人会員の所属構成  
 (個人会員数：807名、団体会員数：60団体)  
 ※7月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内  
 Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)  
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>